



● **茎数は少ないが、草丈が長く、葉色が濃い状態にあります！**

ポイント → 中干しで葉色を下げ、適期・適量の穂肥を施用しましょう！

今年の生育は、指標に比べ草丈がやや長く、茎数は少ない。葉数は回復して平年並になったものの、葉色は濃い状況にあります。このため、適切な時期に適量の穂肥を行うためには、中干しを継続して適正葉色まで下げることが大切です。適期・適量の追肥で、今後の気象の変動にも耐える稲体づくりをし、安定収量・高品質・良食味の両立をめざしましょう。

● **生育**

6/30の調査では、草丈は指標に比べ長く、茎数が指標の8割、葉数が指標並となっています。葉数は指標並に回復しましたが、茎数が少なく、草丈が長く、葉色が濃い状況にあります。

6月30日の「つや姫」の生育

	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	備考
特別栽培 (鶴岡市 上清水)	本年	59.3	394	9.1	45.2	
	前年	43.2	462	8.8	41.3	
	指標	45	540	9.3	40	
	指標比	132	73	-0.2	+5.2	
特別栽培 5ヶ所の平均	本年	55.1	414	9.3	44.5	鶴岡市上清水・小京田・庄内町余目新田・宮曾根・肝煎
	指標	45	540	9.3	40	
	指標比	122	77	±0.0	+4.5	
有機栽培	本年	50.3	386	9.5	43.6	三川町押切新田

● **出穂は、ほぼ平年並とみられます。**

生育調査では、葉数は指標並に回復しました。また、6/30の水田農業試験場(藤島)の調査では、幼穂の発育状況は、ほぼ平年並です。

このことから、現在のところ出穂は平年並とみられます。

表1 幼穂による出穂予想(水田農試:藤島)

品種名	予想出穂日	平年差
はなの舞	7月28日	-1日
あきたこまち	8月1日	±0日
はえぬき	8月7日	±0日

● **中干し後～穂ばらみ期の水管**

中干しが終了したら、走り水をして、足跡に水がたまる程度にしてから、徐々に間断かんがい (2日湛水、2~3日落水をくりかえす) にします。根の健全化を図るとともに、地表付近の根の発達を向上させるためです。この根が、穂肥を効率的に吸収し、登熟を高めます。出穂するまでこの管理を続けます。

● 品種と生育にあわせた、適期・適量の穂肥を行いましょう！

穂肥は、出穂前30～25日に窒素成分1.5kg/10aが基本です。

出穂前35日の7月10日(10葉期)に生育診断を行い、茎数と葉色から以下のような穂肥対応を行います。

- ① 茎数600本/m²、葉色39以下の場合は、基本どおり出穂前30～25日に窒素成分1.5ka/10aを追肥します。
- ② 茎数が600～650本/m²、または、葉色が39～41の場合は、窒素成分を減らして1.0ka/10aの追肥を基本とします。
- ③ 茎数が650本/m²以上、または、葉色が41以上の場合は、出穂前25日頃までに追肥時期の適正葉色に低下したら、窒素成分を減らして1.0ka/10aを追肥します。葉色が低下しない場合は、追肥を行いません。

表2 7月10日の茎数・葉色と穂肥対応

茎数・葉色(SPAD)	穂肥時期	穂肥診断
茎数600本/m ² 以下で、葉色39以下	出穂30～25日前	基本どおり
茎数600～650本/m ² 、または、葉色39～41	出穂30～25日前	減肥する
茎数650本/m ² 以上、または、葉色41以上	出穂前25日頃までに、適正葉色まで低下	減肥する
	出穂前25日頃までに、葉色が低下しない	穂肥を行わない

高品質で良食味な「つや姫」を目指して！

食味：玄米粗タンパク質含有率 7%以下

品質：整粒80%以上 1等米

● 適期適正な病害虫防除を！

①いもち病

6月21日、県内の本田で「いもち病」の発生が確認されました。6月末には、庄内地域でも感染好適日が現れています。いもち病が出やすい地域・ほ場では、本田の見回りを徹底し、早期発見に努めましょう。

②フタオビコヤガ(イネアオムシ)

今年の発生は、平年よりやや多いようです。ほ場をよく観察しましょう。

③コバネイナゴ

今年の発生は、平年より多いようです。

病・虫害の発生を確認したら、農業技術普及課や最寄のJAに相談してください。

農薬は使用基準を守って、適正使用！

農薬の使用は、使用基準を必ず守り、使用記録を記帳しよう。